

無趣味だった私の 余暇の過ごし方

仲間と楽しむ二胡演奏

私にとって「趣味」とは？

今回の原稿依頼を受け、あらためて「趣味とは」と辞書で調べてみました。いくつか調べた中で「趣味とは日ごろから好きでやっていること」という意味が一番納得しました。

最近では、「趣味は何ですか？」と聞かれて「二胡です」と答えることができるようになったのですが、定年後の趣味探しは40歳代から始めていました。

人生80年時代になり、どうすれば生きがいにも満たした人生が送れるのか、定年後の第2の人生を「余生」として捉えず、新しい「第2の人生」として位置づけるためには何らかの趣味が必要と考えて模索しました。

まずは、自分に合った趣味を見つづけるために、自分がおもしろいと感ずることや挑戦してみたいと思うことをいろいろ試して

みました。「石の上にも3年」「3日坊主も10回続ければ1ヶ月の実績になる」というコンセプトで、習い始めたのがフルートと絵手紙と二胡でした。フルートは3年間継続しましたが、仕事と子育てで多忙な時期に習っていたため、練習できないまま次のレッスン日になるという状態であり上達できませんでした。結局、レッスンに行く時間のやりくりができなくなり、3年という区切りでやめました。絵手紙は入門編くらいで終了。とりあえず絵手紙に使う材料や考え方を少々学ぶことができたので、続きは退職後の時間ができたときに再度挑戦予定ということにして、6ヶ月間で終了しました。

50歳代になり、体力づくりのための趣味として、ヨガか太極拳を始めようかと思案していた頃に、二胡を習い始めた職場の同僚の話聞き、徐々に中国楽器の二胡の演

奏ができるようになりたいと考えようになつていきました。たまたま、テレビの情報番組で中国から長崎の大学に留学して二胡演奏をしている季文馨先生きぶんきやうと長崎市役所二胡愛好会の活動を見て、二胡を習うことにしました。

音色に魅了される二胡という デリケートな楽器について

中国民族楽器である二胡は、女子十二楽坊やチェン・ミン、ウェイウェイ・ウーなど若手二胡奏者の活躍後からテレビドラマのBGMやCMなどにも多く使われるようになり、情感豊かな音色に惹かれて長崎でも二胡を習う人が年々増加しています。

二胡の魅力は女性の歌声に聞こえるような独特の音色といわれています。ニシキヘビの皮を張った胴と2本の金属製の弦と馬の尻尾で作られた弓で音を出します。二胡

かみおきょうこ
長崎市役所二胡愛好会



は大変デリケートな楽器で、音色もその日の天気や湿度で変化するので細心の注意をはらって取り扱います。演奏前に室内で音調整をしても屋外での演奏時には音が変化していて、慌てて調整しなおすことも多くあります。楽譜は五線譜ではなく「数字符」と呼ばれる独特な表記の仕方です。音符や休符の表記も独特な表現方法であり、数字符の読み取りを覚えることが必要です。

3日坊主も 何回も継続すれば 何とかなる

私は二胡を始めて8年ほどになりますが、最初はフルートを習ったときと同じで自宅での練習がでない状態でレッスンへ行くので、なかなか上達できませんでした。それでもやめないで二胡が趣味として根付いた理由として、ひとつには二胡の仲間の存在が大きかったと思います。

習い事は一人ですものどチームプレーですものどありますが、長崎市役所二胡愛好会は仲間との演奏活動がメインであり、まさしくチームプレーの活動です。愛好会の結成目的として、老人ホームや自治会などから依頼があればボランティアで参加することが規約

にうたわれています。

私もボランティアに参加するために練習を積み上げてひとつずつ弾ける曲目を増やしていきました。習い初めの自宅での練習では、なかなか理想の音が出せなくて家族のひんしゆくをかつたり、室内で飼っていたペットの犬からは「うるさい」といわんばかりに吠えられたりして、小さくなって練習していました。

二胡は正しい音程を出すのが難しく、弦に当たった左手指の位置で音程がつかれませんが、押さえた指の位置がずれていると音程の外れた音になります。家事や子育てや仕事の片手間で練習しなければならなかったり、両親の介護など私的理由のために何回も活動を休んでは再度参加するといったまさしく「3日坊主も何回も継続すれば何とかなる」の考え方で現在に至っています。

長崎市役所二胡愛好会では、正しい音程・リズムが取れるくらい上達すると演奏会での一人弾きができます。一人弾きは全員で弾き始める先駆けとして最初の数小節を一人で演奏しますが、かなり緊張する瞬間です。

二胡を担いで時には海外にも 遠征する演奏活動

ボランティア活動では毎年いろいろな場所へ行きます。活動参加時の旅費はすべて自前です。老人ホーム、病院、地区の祭り、長崎市のイベント、県外あるいは海外への

慰問ボランティアへも自前の旅費で参加しました。

長崎市役所二胡愛好会では形から入ろうということ、中国楽器の演奏をそれらしく見せるために皆でチャイナ服のユニホームを作り、演奏時には日常よりも化粧を濃くし、ヘアスタイルを整え、舞台用の目立つイヤリングなどで着飾り、参加者全員で和気藹々と楽しみながら舞台上で演奏します。

今までで一番印象に残っている演奏は、韓国日本人妻専用の老人ホーム慶州ナザレ園での演奏でした。在日韓国人男性と結婚した日本の女性が戦争終結後に夫の帰国に同伴し、夫の死後に高齢で独り身となり入居されている老人ホームへの慰問です。

朝早く長崎を出発して福岡へ行き、福岡からジェットホテルで韓国へ渡り、バスでずっと走り続けて施設に到着したときは既に夕食時間になっていて、音合わせの練習時間も取れないまま演奏しなければなりませんでした。お世辞にも上手とはいえない演奏でしたが、日本の曲を演奏すると皆さん涙を流して感激され、「荒城の月」をリクエストされたり、日本の童謡を合唱されて、大変喜んでいただきました。

また、東京の長崎県人会での演奏では、長崎出身のクラシック歌手の方に私たちの二胡演奏で「ふるさと」を唄っていただきました。プロ歌手の演奏をするというめったにないチャンスに恵まれ、ステキな歌声



ボランティア活動で訪れた
熊本県天草での演奏シーン

に合わせしつとりと演奏して、会場の参加者全員の一体感を感じることができました。

私たちが一番うれしく感じるのは、老人ホームなど身近な場所での演奏会で、皆の息がぴったり合って上手に演奏できたときです。そんなときは、会場での感謝の言葉を背中に聞きながら、参加した自分たちもしあわせな気分が帰宅することができます。

私は、習い初めの頃に正しい音が出せなかったのでサイレントあるいは小さな音での演奏参加でしたが、最近では上手ではないにしても何とか一人弾きに挑戦しています。思えば、習い初めの頃は二胡で曲を弾けることがとてもうれしくて、クリスマスや県外の友人の誕生日などに演奏した曲を携帯で送信して喜んでもらっていました。

最も力が入るランタン祭りでの演奏活動

楽器は毎日数分でも練習することが一番の上達法と指導者からいわれていますが、1年間でいちばん二胡の練習時間が多くなるのはランタン祭りの演奏に向けた練習です。

「ランタン祭り」は長崎在住の華僑の皆さんが中国の旧正月に合わせて始められた祭りです。私は8年前より毎年参加していますが、1〜2月開催の祭りに向け、11月から演奏曲を決めて練習開始します。

ランタン祭り開催期間の2週間は、来場者に異国情緒を楽しんでもらうため2箇所の会場をかねもちで演奏してまわり、アマ

チュアなのにプロ並みの忙しさです。ランタン祭りは自分たちの1年間の練習の成果の発表の場でもあり、ボランティア活動に参加する機会でもあります。最近では、二胡の音色が好きで演奏を楽しみに毎年来てくださる県外からの観光客もいます。

仲間たちが二胡を続けられている理由

市役所の職員会館が日ごろの練習とレッスン会場になります。現在、会員は18名です。職員会館で活動する仲間には、二胡の他にギター、キーボード、中国笛等の楽器の仲間もいます。週2回、勤務終了後から二胡を背中に担いだ仲間たちがぼつりぼつりと集まってきました。笑顔で挨拶を交わしてから早速、楽器の音の調整をして各自音出しを兼ねた練習をします。18時半から20時までみっちり指導者のリードで練習を重ねます。

二胡仲間がどのような思いで二胡を趣味にしているのか、7月の練習参加者に聞き取り調査をしました。

回答してくれた10名の内訳は、二胡を始めて1〜3年の初級クラスが4名、8〜10年の中級クラスが6名です。始めたきっかけはさまざまでしたが、「音色」に惹かれて「ボケ防止のため」「文化的な趣味を身に付けたいと思って」などなど、全員が透明感のある音色に心動かされたようです。二胡の他にもフラダンス、太極拳、ジョギング、

空手、ダイビングと体を動かす趣味や園芸、洋裁、手芸、マジシャン、映画鑑賞と動きの少ない趣味を複数持っているという人が多いようでした。

「二胡が継続できているのは、なぜ？」の質問に対しては、次のような回答でした。

- ・二胡を始めた目的がしっかりしているから
- ・仕事しながら時間をつくってやると音が出せるようになったのに、今やめたら努力が無駄になることが悔しいから
- ・先輩のように弾けるようになるまでは、やめられない
- ・二胡をしていなければ体験できなかった人との出会いや知らない場所を知ることが楽しい
- ・仲間がいての練習や訪問演奏が楽しい
- ・ボランティア演奏で喜んでくださる人との交流がうれしく、励みになる
- ・二胡の音色が好きで仲間と一緒に活動が楽しい

仲間と演奏すると自分の上達度がわかるし、演奏曲目が増えていくことが楽しい
・シンプルな構造なのにきれいな音色が出る楽器が魅力的なので、継続できている
このように回答はさまざまでしたが、ほぼ全員が「仲間と一緒にいるのが楽しいから」という理由を挙げてくれました。

「印象に残っていることは？」の問い掛けに対しては、「ランタン祭りでの演奏」「訪問演奏」「イベントのレセプションとして参加したときに、聴いてくださった方が喜ん

長崎ランタンフェスティバルで季文馨先生による二胡演奏



「だり感激している姿を見るのがうれしい」「練習はとでも大変で演奏会は緊張するが、仲間と一体感のある演奏ができたときは達成感があり、大変な思いをした分だけ上達する」といった回答でした。

こうしてみると、楽器の持つ魅力と仲間と一緒に過ごす楽しい時間の共有のために、愛好会の仲間たちも二胡という趣味を継続できているようです。楽しい時間の共有ができるのは、お互いに仲間意識と協調性を持っているからでしょう。そうして、演奏を聞いてくださった方々に感謝されたり喜

ばれたりするのを感じながら、自分たちが楽しませてもらっているのだと思います。練習も含めた活動での仲間たちとの楽しいひとときは、仕事やいろいろな悩みを忘れられる時間となり、心のリフレッシュができます。

演奏会のある休日の過ごし方

ここで、ある演奏会の1日をご紹介します。と思います。

休日の早朝から楽器・衣装などを準備して、車数台に乗り合わせて演奏会場に集合します。会場到着後はスピーカーやマイク、譜面台、椅子のセッティング。その後、演奏曲目の一通りの音合わせをします。舞台用のチャイナ服と化粧直しをして、普段に比べ磨きをかけて緊張しながら演奏。

演奏終了後は、マイク類の後片付けを参加者全員で行います。すべてが終わった後は、参加メンバーで乾杯しての反省会。いろいろな職種や経歴を持ったメンバーたちの四方山話をにこにこ笑顔で楽しんで、解散となります。時には、ほとんど家族と過ごせず二胡の仲間と過ごして休日が終了ということもあります。それができるのも家族の協力や温かい応援の賜物。家族に「感謝×感謝」です。

遠い未来、近い将来のために

人生を長い旅路で表現すれば、20代は美しく、30代は強く、40代は賢く、50代は豊

かに、60代は健康に、そして80歳を過ぎたらいぶし銀のように美しくと思います。いぶし銀の未来へ向けて、健康に關しては、快食、快便、快眠で、病気になるべく縁がないようなピンピンと元気な状態で上手に人生を送るために、私の今後も「日頃から好きでやっていること」である趣味の二胡を楽しみながら、充実した毎日を送りたいものです。

読者の皆さんへ

あなたが夢中になれること、心から楽しめるものはありますか？ 夢中で取り組めるものは、生きがいになり人生につながると思います。あなたも何か夢中に取り組めるものを趣味として見つけてください。同じ趣味の仲間と集うことも楽しいものですよ!!

最後に毎年中国の旧正月に合わせて開催される「ランタン祭り」をご紹介します。いまや長崎の冬の風物詩となったランタン祭りは、県外からの観光客も増加して年々盛大な祭りになっています。赤・黄・桃色など色とりどりのランタン（提灯）がめがね橋の水面に浮かぶ様はとてきれいです。ランタン祭りの開催中は、あちこちの会場に動物・人物・花などのカラフルなランタンも設置され、異国情緒満点です。寒い時期なので防寒対策をしつかりして、ぜひ長崎の冬の祭りにおいでください。あちこちの会場から二胡の生演奏が聞こえてきて、きつと心身共に癒されることでしょう。